

大相撲の歴史と深川⑥

相撲と縁の人物の史跡

江東区深川江戸資料館

江戸時代の^{かんじんずもう}勸進相撲より大相撲^{ゆかり}と縁のある江東区は、富岡八幡宮の史跡（資料館ノート103号参照）を始め、力士や年寄、行司など相撲に関わる人物の墓所が数多く残っています。本号では、相撲寺^{すもうでら}と呼ばれる寺社を中心に、現在も残る史跡を紹介していきます。

1. 萬徳院（永代2-37-23）

寛永6年（1629）に八丁堀材木町（現中央区）に創建され、同20年（1643）に深川新田島（現在地）に移転された真言宗の寺です。江戸時代から相撲寺の通称で親しまれており、伊勢ノ海が永代寺門前に住んでいたことや、宿所稽古場があったこと等を要因として伊勢ノ海に縁の人物の墓があります。

萬徳院には、年寄・伊勢ノ海、佐渡ヶ嶽、関ノ戸の代々の墓、他にも伊勢ノ海門弟、荒虎敬之助（年寄・若藤）、初代・伊勢ヶ濱（5代・式守伊之助）、式守伊之助（6・8代）などの墓があります。年寄とは、現役を引退後（現役中の場合も）、年寄名跡^{みょうぜき}を襲名継承した者で、江戸時代には年寄仲間を組織し、興行を催したり、門弟の育成に務めたりしていました。

年寄・伊勢ノ海は、江戸相撲の流れをくむ年寄名跡の中でも、初代から連綿と継承されている年寄名跡で、宝暦年間（1751～1764）に創設されました。その初めは、武蔵国埼玉郡名倉村（現埼玉県）出身の伊勢ノ海五太夫（？～1774）です。年寄としての初代は宝暦6年（1756）の興行の勸進元を届け出ており、その後も勸進元・差添を務めています。一方、弟子の育成にも尽力して、主だった門弟は、大関・白川関右衛門や、初代関ノ戸億右衛門（のち2代伊勢ノ海）らを育てました。また、門弟は力士だけに限らず、式守姓を名乗る行司一同は、代々の伊勢ノ海の傘下に属していました。

ついで、2代伊勢ノ海も門弟の育成に尽力し、大関・達ヶ関（のち4代横綱・谷風梶之助）ら多くの力士を育てています。他にも、5代伊勢ノ海利助（4代柏



勝川春英画「柏戸利助（5代目伊勢ノ海）」（相撲博物館蔵）

戸利助）は、文政6年（1823）に京都五条家より横綱免許が下った人物として知られています。しかし、吉田司家に遠慮をし、正式には受けていないため幻の横綱でした。

同じく江戸時代からある年寄名跡・佐渡ヶ嶽の墓もあります。その年寄としての初めは、初代佐渡ヶ嶽澤右衛門です。師弟関係が明らかではありませんが、伊勢ノ海系の力士と推定されています。

初代佐渡ヶ嶽は、上野国群馬郡天川村（現群馬県）の出身で、宝暦11年10月の番付に名前（佐渡ヶ嶽織右衛門）が確認されます。翌年3月に、しこ名を澤右衛門と改め、以後、年寄・佐渡ヶ嶽の通り名となりました。門弟には、^{かけはし}棧シ改め関ノ戸初五郎（3代佐渡ヶ嶽）がおり、その弟子には、7代横綱・稻妻雷五郎がいます。

2. 玉泉院（平野1-14-6）

明暦年間（1655～1658）に^{ちやうしょういんにちえい}長昌院日栄によって開創された日蓮宗浄心寺の塔頭の一つです。

玉泉院には、年寄^{おうのまつ}・阿武松、浦風の代々の墓や、行司・木村庄之助代々の墓があります。

阿武松は、6代横綱・阿武松緑之助を初めとする年寄名跡です。初代・阿武松は、能登国鳳至郡（現石川県）の出身で、長州藩のお抱え力士です。文化12年（1815）に初土俵、文政11年2月に吉田司家より横綱免許を受け、のち6代横綱として数えられている人物です。引退後、しこ名のまま年寄となり門弟を育てました。なお、阿武松緑之助の立身出世話は、落語「阿武松」として現在も演じられています。

年寄名跡の一つである浦風は、初代は安永元年（1772）11月で引退した浦風与八です。引退後は、年寄をつとめ勸進元も務めています。また、6代浦風は、看板力士として土俵を沸かせた白真弓肥太右衛門です。身長6尺8寸6分（208センチ）40貫150キロという巨人で、嘉永6年（1853）11月に欄外に張り出されて一人土俵入りを行った力士です。嘉永7年11月より正式に入幕して土俵を務め、その怪力ぶりは、数々のエピソードが残っています。

また、立行司・木村庄之助代々の墓もあります。13代木村庄之助は、幕末から明治初期にかけて、23年間にわたり立行司をつとめた名行司です。浦風林右衛門（8代浦風）の弟子で、9代庄之助に師事しました。他にも16代木村庄之助は、「梅・常陸」全盛期の名行司で、木村、式守両家を名乗った嚆矢となった人物です。

3. 浄心寺（平野 2-4-25）

万治元年（1658）に創建され、靈巖寺とともに深川を代表する日蓮宗の寺です。当寺には、年寄・荒汐4代、谷ノ川安吉の墓があります。

4. 靈巖寺（白河 1-3-32）

寛永元年（1624）靈岸島に創建され、万治元年に現在の地に移転した浄土宗の寺です。当寺には、年寄・春日野（6～8代）、年寄・峰崎（5代、那智ノ山公晴）、汐ノ海運右衛門の墓があります。

5. 普門院（亀戸 3-43-3）

大永2年（1522）武蔵国豊島郡石浜（現荒川区）に創建されたと伝えられ、元和年間（1615～1624）に現在の地に移転した真言宗の寺です。当寺には、9代横綱・秀ノ山雷五郎と、年寄・鳴戸（3～6代）の墓があります。

6. 因速寺（東砂 1-4-10）

元和年間に京橋竹町辺りに創建され、その後、木挽町、八丁堀材木町、ついで深川へ移転され、関東大震災後の大正12年（1923）に現在の地に創建さ



歌川国貞画「阿武松緑之助」（相撲博物館蔵）

れた真宗の寺です。当寺には、「め組のけんか」で知られる四ツ車大八と、年寄・宮城野代々の墓があります。

7. 成等院（三好 1-6-13）

寛永元年、靈巖寺の塔頭として創建され、万治元年に靈巖寺とともに現在の地に移転した浄土宗の寺です。当寺には、年寄・山響（3～5代）の墓があります。

8. 寒光寺（深川 2-22-11）

寛永10年に赤坂の地に創建され、寛文元年（1661）現在の地に移転した臨済宗の寺です。当寺には、年寄・若藤（7～9代）と、沖ツ海福雄の墓があります。

9. 唱行院（三好 1-3-19）

元禄8年（1695）京橋に創建され、江戸時代末期に現在の地に移ってきたといえます。当寺には、年寄・浜風（9～11代）の墓があります。

10. 円隆院（三好 1-2-11）

もとは浄心寺の塔頭の、日蓮宗の寺です。当寺には、年寄・高砂（初代・2代）の墓があります。

本号で紹介した史跡・人物の他にも、江東区には相撲に関する史跡があると言われています。このことから、江東区とりわけ深川は、現在につながる相撲の歴史がある地域といえるでしょう。

《主な参考文献》

『相撲の史跡』1～4（相撲史跡研究会 / 1973～1985）

『相撲』613号（ベースボール・マガジン社 / 1997）